

# 令和4年度第1回いわてで働こう推進協議会 議事録

(日時) 令和4年6月9日(木) 10時～11時45分

(場所) 岩手教育会館2階 多目的ホール

## 1 開会

## 2 挨拶

### 【会長】

「いわてで働こう推進協議会」の開催に当たり、御挨拶申し上げます。

本日御出席の皆様方には、岩手県のふるさと振興推進、人口減少対策の推進に当たり、日頃から格別の御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスオミクロン株の流行による消費の落ち込みに加え、原油高や、さらに輸入物資価格の高騰も重なり、岩手県内でも飲食業、宿泊業、小売業など多くの業種に影響が及んでおります。

一方、県内では、自動車・半導体を中心としたものづくり産業の集積がさらに進んでおり、新型コロナウイルス流行による地方の良さの再認識による移住への関心や県内高校生、大学生の地元志向の高まりという傾向もございます。

県では「岩手で働く」「岩手で育てる」「岩手で暮らす」、そして「岩手とつながる」の4本の柱を持つ「いわて県民計画」の下、持続可能で活力ある地域経済の確立を図りつつ、雇用の維持・確保、働きやすく魅力のある職場づくり等に向けて取り組んでおります。

今年度はいわて県民計画第一期アクションプラン、4年計画の最終年度にあたり、来年度からの4年間、第二期アクションプランの策定年度にもなっております。

いわてで働こう推進協議会が設立当初から取り組んでおります若者・女性の県内定着やU・Iターンの促進等についても、構成団体の皆様の御意見をいただきながら計画づくり、アクションプランの策定を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

本日は、3月の協議会で協議した今年度の取組方針に対する具体的な展開について確認するとともに、今年度重点的に取組む事項や今後の県の施策の方向性について議論いただきたいと思います。

結びに、今後ともいわてで働こう推進協議会を中心に県内就業の促進や働き方改革の推進など、総合的に取り組むため、オール岩手の知恵と力を結集し、引き続き活動していくことをお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

## 3 議事

### (1) 報告事項

令和3年度の事業報告について(説明の記載省略)

意見等なし

<就職状況について、各大学から報告>

#### ○ 岩手大学

岩手大学の就職状況ですけれども、令和4年3月卒業者の就職率は93.5%となっております。また岩手県内の就職率は37.9%です。就職率は昨年度に比べて若干減少しましたが、高水準を維持していると考えております。これが100%にならないのは、公務員や教員等、職業目標がきちっとしていて、次年度の就職を目指す学生が一定数いるということで、この93.5%という数値がご理解いただけたと思います。

一方、先ほど説明がございました県内就職者の割合ということで見ますと、昨年と比べて本学も微増しました。ただこれは少し長めの10年のスパンで見ますと、35%から37%前後で推移をしていて、上昇傾向にあるとまでははっきりと申し上げる状況にないとうご理解ください。

また、今年度の特徴としましては大学院への進学率が昨年度と比べて4.4ポイント増の31.6%と増加していることが挙げられます。これは地域が高度職業人材を求めていることへの反映だと考えておりますので、本学としても積極的に対応していきたいと思っております。

また、本学の卒業生に対してアンケートを実施しました。その結果、学生が就職を選ぶ際に出身地が大きく影響しているということがわかってまいりました。県内出身者であれ、県外出身者であれ、入学前に過ごした地元で貢献したいという地元志向がかなりの割合であると理解して良いと思います。本学の入学者に占める岩手県出身者の割合も例年35%から40%で推移しておりますので、先ほどの就職率とも数値的には整合性があります。最近少し問題に感じているのは県内出身の割合が減少傾向にあるということで、これは高大連携等で学力向上に努める必要があると考えております。岩手大学の状況は以上です。

#### ○ 岩手県立大学

岩手県立大学でございます。令和3年度の就職内定率でございますけれども、4大学部が97.4%、盛岡短期大学部が96.3%、宮古短期大学部が95.4%となっております。9年連続100%を達成した看護学部をはじめ、4大学部・2短期大学部で昨年度を0.6から7.1ポイント上回っております。

また、県内就職内定率についてでございますけれども、4大学部が49.6%、盛短が74.0%、宮短が77.4%で、いずれも昨年度を上回る県内就職内定率となっております。特に看護学部が66.7%と、前年度比21.4ポイントの大幅増、また、総合政策学部も66.0%と前年度比15.0ポイントの増で、両学部につきましては過去最高の県内就職内定率となっております。

県内内定者の増加要因につきましては、現在各学部から情報収集を行い分析中でございますが、やはりコロナの影響で地元志向が強まったことや首都圏の企業が対面でのインターンシップができない状況の中、より身近な地元企業に目がむけられたことが一因であると考えております。

最後に、公務員への就職内定者でございますが、4大学部・2短期大学部・大学院が合計で昨年度より14人増の81人と過去最多となり、このうち県内内定者が54人、前年度比9人増と、そういった状況になってございます。以上でございます。

#### ○ 岩手保健医療大学

岩手保健医療大学です。本学は看護学部単科の大学でございます。学生が少ない大学でございますけれども、2回生の卒業だったんですけれども66名卒業いたしまして、進学が1名ございました。養護教諭の方のI種とれるところに進学した者がおります。あと看護師が61名、保健師が4名で、65名中33名が岩手県内に就職しましたので、50%を超えております。これは昨年とほぼ同様です。

3回生は少しわからないところで、少し減るのかなというところでございました。岩手県以外の東北4県では15名なので23%、ですから東北全体で考えると75%近いという状況です。

岩手に、地元に残るようにと指導しているが、実際に関東で勉強したいという学生もおりましたので、そういう関東の方で26%就職している現状があります。

特記すべきことは、保健師で岩手県に3名採用していただいたので、4名のうち3名が岩手県に就職できたことはとてもありがたいことだと感じています。岩手県の医療局に16名ということで大勢の学生が入りまして、3回生は20名擁していますので、岩手県に残ることが起こってくるかなと思っているところです。以上です。

#### ○ 富士大学

富士大学でございます。

富士大学の令和4年3月に卒業した学生は175名でありました。実就職率は96.5%でした。実就職率の「実」というのは希望者ではなく、卒業した学生を分母にして、就職した学生ということで、とにかく就職したパーセントといいますと、96.5%であります。多くの大学で出しているような就職率、すなわち就職希望する者の中で、就職ができた者のパーセンテージは98.2%です。数名迷ったりして行かなかった子もいましたけれども、ほとんど就職は内定して、例年通り高い就職率を維持しております。

卒業生175名の中で、岩手県の出身者は72名です。そのうち51名が岩手に就職しております。地元就職率は72.1%ということで、先ほどから出ているように地元に行きたい、就職したいという学生が非常に多いということが感じられます。

それから反対に、岩手県外の出身者の卒業生は103名おりました。そのうち、あえて地元に戻らないで、岩手県に就職した学生は8名でした。パーセンテージにすると4.6%と、大体これくらいの数字で岩手の学生も向こうに行ったり、向こうの学生が岩手に来たり、起こっているのかなというのがありますし、もう少し詰めますと県別に分けるのはなかなか難しいものがあります。高校の時スポーツがやりたいと北海道に行って、北海道の高校が終わって岩手に戻ってきたと、この人が就職した時に北海道出身になるのか、岩手県出身となるのかというのがなかなか難しいところで、そういうのが数名おまして、私立高校を卒業した子などではおそらくあります。

それから、地元就職率は57.7%、つまり卒業生の6割近くが地元で就職しているということが考えられます。山形から来た子は山形、岩手の子は岩手、秋田の子は秋田、青森の子は青森と、若干開きがありますが、そういう傾向があります。

岩手県出身者の県内就職者はここ数年で70%、定着しています。

このことはいわてで働こうという施策の成果をあげるには、やはり先ほど岩手大学さんが言うように岩手県出身者の県内大学への入学ということが非常にポイントになるかなというふうに思っております。

岩手の学校で、あるいは岩手の大学で学ぼうという施策との連動が必要かなというふうに考えておりました。以上です

## ○ 盛岡大学

盛岡大学でございます。令和3年度の学生の就職状況について説明させていただきます。令和4年5月1日現在で、大学の方は卒業生378人中の252名ということで、66%がいわゆる県内就職ということになります。内訳は男子が61%、女子が70%という県内の就職であります。大学の方は文学部と栄養科学部の2学部でございますけれども、学部によつての差はそう大してなくて、やはり女子が70%、男子が60%位となっております。

それから短期大学部につきましては、例年卒業生は100%の就職、保育士とか認定こども園とかそういったところに就職しておりますけれども、去年も今年も100%ということです。ただ、県内の就職者を見ますと、岩手県には71%、91名卒業しまして66人ですね、71%あとは東北六県あるいは北海道、関東、これおそらくほとんどが地元があるところに戻っていくということが多いんじゃないかなというふうに思います。

本学は県内出身者が7割くらい、同じくらいのパーセントで県内に就職しているということでございます。

今、富士大さんの方でお話がありましたように、いわゆる高等教育機関、大学への進学率、皆さんご存知のように岩手県は非常に低い、これを何とかして高めて、社会に、岩手県内に力のある学生を輩出したいということで、是非高等教育機関の方に進学を勧めていただきたいというふうに思います。以上でございます。

## ○ 修紅短期大学

修紅短期大学の今年の卒業生は幼児教育学科33名、食物栄養学科20名と非常に少ない人数ではありますが、そのうち幼児教育学科は県内出身者が72%占めておまして、県内に就職したのが78%ということでありまして、そのうち正規採用が同じく78%、内訳を申しますと保育士が43%、保育教諭が30%、幼稚園教諭が6%、児童福祉士または知的障がい者施設の支援員として12%という内容になっております。

それから食物栄養学科につきましては、今年の卒業生の県内の出身者は20名のうち8名が県内の出身者でありまして、全体の53%を占めております。そのうち県内に就職したのは89%ということで、栄養士が65%、調理員が15%、というふうな内訳になっております。

それから進学者も10%、四年制大学に編入というふうな形となっております。本学は非常に小さい学校でございますので、このコロナ禍の中、実習先の御理解と御協力によりまして、保育実習、施設実習、そして食物栄養学科の校外給食実習等すべての現場を経験させて、みなし実習は一つもなかったということで、今年も力をつけて卒業させていただきました。

その中で食物栄養学科は全て正規採用で採用されております。年々県内の卒業生が多くなってきて地元就職したいという学生が多くなっておりますので、できるだけ地元就職させて、地元の貢献をして頂きたいというふうに思っております。

以上でございます。

#### ○ 一関工業高等専門学校

一関高専です。一関高専はものづくりに特化したエンジニア寄りの学校ということで、頂いている求人は大手、全国区の企業様、製造業を中心に来ておりますけれども、昨年度の実績としましては本科生143名卒業者のうち77名が就職希望ということで、ほぼ全員が就職内定いただいております。そのうち岩手県内に、77名のうち17名ということで割合としては22.1%ということで、例年に比べるとちょっと低いという状況になりました。ただ、一関市というところで見ると、今までで最高の6名という学生が就職しております、毎年波はあるんですけれども地元に残るという意味では一定の成果を残せたかなというふうに思っております。

それに対して専攻科なんです、修業生26名おまして、そのうちの15名が就職希望ということになっております。その15名のうち県内就職が4名ということで割合としては26.7%ということになっております。

昨年度はコロナの影響ということもあったと思うんですけれども、全体的に進学希望者が多くて本科から大学への編入学、それから専攻科から大学院への進学という割合が多かったという状況でございました。今年度も引き続き岩手県内への就職学生を増やせるように努力してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。以上です。

#### (2) 協議事項

ア 令和4年度の事業計画（案）について（説明の記載省略）  
原案のとおり決定

イ 今後の方向性について  
(a) 重点的に取り組む事項について（説明の記載省略）

#### 【会長】

女性の就業促進部会は非常にすごい部会になっているので、よろしく願いしたいと思います。

#### ○ 岩手県商工会議所連合会

岩手県商工会議所連合会でございます。女性の就業促進部会ということで、こちらの方の資料の提供でございますけれども、令和2年度に提言をとりまとめたということでございまして、おそらく提言を取りまとめた時の部会の部会長さん、今は変わったかどうかわからないのですが、盛岡商工会議所の女性会の佐々木副会長さんが部会長ということで、いずれにせよ商工会議所の女性会のメンバーもいろいろ関わりながら提言の方をとりまとめさせていただいたということだったかと記憶しております。女性会の、女性経営者の集まりということでそれぞれ独立した事業を展開しているわけですが、そういった中での連携というのもおそらく可能なのかなというふうに思っております。

また、情報発信につきましても我々経済団体といたしましては情報発信について求められている部分が多々あるのかなということでございますので、いずれ必要に応じて協力の方させていただきたいということもございまして、その都度いろんなお声かけをいただければというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。以上でございます。

○ 岩手県商工会連合会

県内の中小企業の人手不足・人材不足というのは重要な課題となっております、若者や女性の就職に向けた企画は企業側にとっても多くの期待が寄せられていると思います。そんな中で、県内の商工会では地域の実情に応じた様々な団体の事務を受けていたり、ところによっては、誘致企業を中心とした起業団体を支援していたり、あるいは一部ですけれども、部会などで地元の企業の魅力を地元の高校生等に発信するような事業も行ってございます。そういったことからそういった方への周知、情報提供、共有等で連携を図る可能性はあるのかなと思っております。以上でございます。

○ 岩手県中小企業団体中央会

中央会の会長の小山田でございます。まず女性活躍という視点で見ますと、中小企業におきましても管理職登用をはじめ、先進的な取組を行う企業も増えてきているところであります。ただ、まだまだのびしろがあるという認識をしております。女性の管理職の比率が高まった企業では多様な価値観や創造性が生まれ、業績の向上にも繋がっているというふうに考えておりますし、女性が働きやすい職場や労働環境の改善に取り組んでいくことが、企業の成長要因のひとつというふうに考えております。

女性の就業促進部会との連携ということにつきましては、中央会の会員あるいは組合員の方々も県及び盛岡以外の各地域の工業クラブにも加盟をしておりますので、周知等あるいは情報発信等、今後とも連携して一緒に取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

○ 岩手県経営者協会

経営者協会でございます。いつも大変お世話になっております。私の方からは2点お話しさせていただきたいと思っております。まず1点の情報発信、制度等の周知も含めてでございますが、これにつきましては今のように連携を組みながら進めてまいりたいというふうに考えてございまして、一つ例といたしまして、昨年「いわて働き方改革AWARD2021」の最優秀賞を受賞した一関の企業さんは、手前どもの協会の会員さんでございまして、それを受けまして、私どもの方で本社の方にお邪魔して、具体的な取組と申しますか、取組の掘り下げを聞いてきてそれを会報に載せたということもございまして、という形で、情報発信等に努めてまいりたいと考えてございます。

2点目でございますが、女性の視点を持つために多機能経営とすれば、女性の管理職の比率を上げることが一つの視点かというふうに考えてございまして、データとしていろんなデータがございまして、手前どもの協会が東北の同じような協会と昨年調査したものがございまして、女性の管理職比率というのがありまして、東北全体では8.0%で、本県が6.5%という状況がございまして、ただこれは調査に協力していただいた企業さんの集計でございますので、細かい分析等はできかねる部分はございまして、傾向としては東北では8.0%、本県が6.5%ということはデータとしてお調べしたところがありますので、この比率を少しでも上げていくということも間接的に女性の就業を促進することに役立つのではないかとというふうに考えてございます。以上でございます。

○ 岩手経済同友会

岩手経済同友会でございます。当会には委員会がございまして、その中の一つの委員会の活動目標といたしまして、若者の県内定着を図るための取組の検討実施する、それから関心の高いことではございますが、国連が掲げます目標SDGsに絡めましてジェンダー平等を実現してすべての女性が能力を發揮できるようにしようということについて、求められる人材について理解を深めるということも掲げております。でありますので、先ほどご紹介いただきました女性の就業促進部会の方を例えばお招きして具体的事例をお話いただくとか、というようなことをぜひ検討してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○ 岩手県中小企業家同友

中小企業家同友会でございます。よろしくお願ひいたします。私どもでは先ほど資料にもございましたが、新卒者の合同入社式というのを毎年やっておりますが、県の皆様においていただいております。毎年、女性の雇用が約半数近くにもなりまして、実は事務職だけではなく、現場の建設関連とか電機関連でも、現場で働きたいという女性も増えておりまして、非常にそうした雇用の面では大きく変わっております。同時に私どもの課題としましては働く環境づくりの課題であったり、特に継続して働くためのそういう環境づくりについての、まだまだ育成の計画ができていないという現状がございます。

そこで、今回女性の就業促進部会の方とも御相談させていただいて、9月に商工企画室とも協力させていただいて、弊会の方と学習意見交換会を開催することを決定しております。これにつきましても事例としていい報告だけではなく、実際にこれから課題を県の皆様にも共有いただきまして御指導御支援いただいたり、御相談しながら地域に根付いていく、そんな状況を作るための方策を考えていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○ 岩手保健医療大学

女性のことにしましては私も学長になって2年目なのでいろいろ意見はあるんですけども、今はそのことではなくて、資料の8のところにありますU・Iターンの促進というところに関しまして、読ませていただいてすごく丁寧な取組をされているんだなと思いましたが、できればコロナ禍でちょっと地元志向も強くなっていますが、本当に狭い範囲で申し訳ないんですけども、看護系のところはやっぱり岩手県出身の方でも2割3割東京の方で勉強したいと言って出てしまう学生さんたちがいます。本学はまだそれには該当しないんですけども、就職した学生さんがまた岩手に戻って働きたいと思うような、そういうサポート体制を強化して岩手に戻ってきたいなと思わせるような仕掛けを今後作っていただければありがたいという希望のような意見でした。以上となります。

【会長】

重点的に取組む事項について、若者・女性の県内就職の促進と移住定住、U・Iターンの促進でありますけれども、この若者・女性の県内就職の促進については、スポーツの分野でアスリートを養成していく際に、昔は若者・女性に限らずですが、とにかく監督、コーチの言うことを聞き、しごきに耐えるというのが基本で、特に若者・女性に対してただ言うことを聞いていけばいいんだ、しごきに耐えろ、文句は言うな、意見を言うのは10年早い、そもそもそういう資格はないみたいな扱いを、スポーツの分野で過去あったわけですけども、今基本的にスポーツをする、そういう主体性、アスリートであろうとするそういう主体性に対して敬意を表するということですね、相手が若者・女性、誰でもですけども、特に若者・女性に対して敬意を表する、いろんなスポーツの種目でそういうことが語られているんですけども、経営の側といいますか、体制の側といいますか、高校生・大学生に始まって、そして、会社に入ってくる若者・女性に対して、未熟な部分とかいろいろまだ知らない部分に対しては適切に指導していけばいいと思うんですけど、基本的に働こうという姿勢については敬意を表して、それで相手の人格を尊重するということが大事なんじゃないかと思ひます。そういう先進性が地域としてある、県としてあるということがはっきり見えてくると、移住定住、U・Iターンにも役に立つんだと思うので、是非そういう先進性を、人間として当然といえば当然のことであると思うんですけども、仕事とかビジネスというのはお互いに敬意を持ち合うところから始まるものでありましょから、若者・女性に対して特にそれを意識することが大事なんではないかと思ひます。

### ○ ふるさといわて定住財団

ふるさといわて定住財団の藤澤でございます。いつも大変お世話になっております。第2期政策推進プランに向けて、県内就業やU・Iターンの推進を強化するというお話をいただきました。ということで、私からは今年度の県の新規事業に関連づけて、今後について2つのお願いをしたいと思います。ちょっと細かい話になりますが、1つ目が企業の大卒者等若者人材を確保するための勉強会の実施についてであります。これはとてもいい企画だと思います。昨年度県と財団が共催で県内外の若者に向けてWEBによる移住促進フェア「いわてU・Iトーク」を実施いたしました。2日間のWEBのイベントでしたけれども、これはいわて暮らしの魅力を伝える様々なコーナーを設けて、その他に企業PRのコーナーに県内企業40社に出展頂きまして、各社が作成した動画により企業PRを行っていただきました。出展頂いた企業さんからは「企業PRの動画作成は敷居が高いと思っていたけどやってみたらそうでもなかった」といった感想を頂戴しました。実際にこの出展をきっかけとして採用に至った企業さんもありました。ITに精通した若手社員が自由な発想で会社のPRコンテンツを作成されているとのことでした。しかしながら、一方で、ホームページやWEB動画の作成に取り組みたいけれどもノウハウがわからない、人材がいないといった企業さんは多いように見受けられます。是非この背中を押すような支援を今後もお願いしたいと思います。そして、相手に限らず社会情勢の変化や若者の気質を踏まえた企業の採用力の向上に継続的なお力添えを是非お願いしたいと思います。

それから2点目でございますが、女性のための大学生等職場体験等プログラム、この新規事業もとてもいい企画だと思います。県はこれまでいわて女性活躍等認定企業ですとか、子育てに優しい企業等認定制度等で働く女性の職場環境の整備に取り組まれていましたけれども、こういった先進的な取組を行う企業さんと女子学生が実際に交流する機会というのはなかなかなかったように思います。多くの女子学生は将来働きながら家庭をもって子育てをすることに漠然とした不安を抱いていると思います。是非働く女性と女子学生が本音で語り合えるような雰囲気づくりを工夫いただきまして、これも継続して行っていただければありがたいなというふうに思います。以上になります。

### ○ 岩手県高等学校長協会

岩手県高等学校長協会でございますが、各学校では各校のキャリア教育、指針等に基づきながら企業見学、出前講義、地域を知る探究活動、関係機関が実施している事業等への参加等を通して、県内企業への理解を深め、岩手で働く魅力や将来展望を考える機会を作っております。これらについては関係各機関の御支援御協力に感謝申し上げます。

高校関係では昨年5月に県教育委員会におきまして、高校再編計画後期計画が策定されましたが、その基本的な考え方は地域や地域産業を担う人材づくりとされております。それから昨年10月には岩手の高校魅力化グランドデザイン for2031、いわゆるスクールミッションというものが策定されまして、これを基に各校においてスクールポリシーの策定を進め、各校の魅力化に努めているところでございます。

校長協会では協会内の就職対策委員会を中心に、県教育委員会等と連携をしながら、県内就職率の目標達成に向けて関係機関の事業の周知、共有に努めているところでございます。これらの取組は基本になっているものが県教育委員会において策定した「岩手県教育振興計画」というのに基づいて、様々な教育活動を行ったり、各校での学校経営計画を策定して取り組んでいるわけなんです。ただ、「岩手県教育振興計画」というのは令和元年、2019年からスタートしたものです。ただ、各都道府県の教育振興計画というのは、国の教育計画を参酌して作るということになっているので、5か年間の計画です。一方、いわて県民計画は長期ビジョンは10年間、第1期アクションプランは4年間と教育振興計画は5年間で1年間のずれがあるわけなんです。そこは国の計画を参酌しながらも県民計画と整合性をとるようという形で振興計画を作っております。それで、県民計画第2期アクションプランのスタートの年が、「岩手県教育振興計画」の最後の年になるわけなんです。先ほど言った通り県民計画と整合性をとって、各校の魅力化促進に取り組んでいることから、

大きく第1期アクションプランから大きな変更がないようにしていただければな、というのが考えではあるんですけども、その中で、この4年間あるいは先ほど複数の大学様からも話があったことを踏まえると、校長協会とすれば三点考えることがあります。

一点はこの第1期アクションプランを作る前にはなかったこととして、当然ですけども、コロナという影響がありますので、コロナの影響を踏まえた上で、第2期アクションプランを作っていたければというの一点です。

それから二点目は、これは各大学様からもございましたが、高大連携ということ。県委員会でも高大連携ということでやっていますし、校長協会としてもそれぞれの大学様との意見交換もさせていただいておりますけれども、岩手での就職率を高めるためにはやはりそもそもが地元の大学への進学者を増やしたいということで高大連携を強化してまいりたいということです。

それから女性促進の話がございましたが、今、文科省でも文系理系の選択のジェンダーギャップの解消ということに取り組んでいて、わかりやすく言えば理系の女子生徒の進学に対して力を入れていこうということで、これは各学校でも取り組んでいきたいというふうに思っていますので、そのあたりのことを第2期アクションプラン策定の時には考慮していただければというふうに思います。以上でございます。

#### ○ 岩手県商工会議所連合会

商工会議所連合会でございます。こちらの方、3の強化する取組(案)の例示のほうでもございます、起業支援体制の強化、また事業承継の円滑化ということでございますが、商工会議所におきましても起業創業支援、事業承継に重点的に取り組んでいるところでございます。

事業承継につきましては、国ということで全国に支援センター設置ということで、当県におきましても盛岡商工会議所におきまして岩手県事業承継引継支援センターを設置させていただいております、こちらの方で事業譲渡等の第三者承継、また親族間承継の支援にワンストップで対応しているところでございます。

センターにおきましては創業希望者、後継者不在の企業のマッチング等を行っているということでございまして、より多くの事業承継を円滑に進めていくためには、やはりより多くの企業の登録とともに多くの創業予定者の登録が不可欠ということとなっております。

支援センターにおきましては、後継者人材バンクということで、後継者の候補となる創業希望者の登録を募集しているわけですが、商工会議所におきましては企業さんの方に情報発信というのはそれなりに可能ではございますけれども、やはり創業希望者につきましては待つしかないというようなホームページ等々を覗いていただいたりとかで、なかなかプッシュするのが難しいということもございます。そこで岩手県におかれましては後継者不足の企業の掘り起こしもそんなんですけども、創業希望者について後継者人材バンクへ登録いただけるように御誘導等の支援をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

#### ○ 中小企業家同友会

中小企業家同友会でございます。「仕事・収入」の⑩、⑪、⑫に関しまして、僭越ではございますが意見を述べさせていただきます。達成状況が令和2年度に関しましては499万と、最終目標が450万ほどということで、農林漁業全てが下がっている目標でございまして、この辺に関して少し思うところがございましたので、申し上げます。

私ども会員400名ほどなんですが、最近20代30代の農業後継者が非常に多くなっております。その方々が大変熱意をもって農業や漁業、林業に携わっているんですが、特に県信連の皆様とそうした方々を計画づくりをバックアップを今、連携協定を結んでやっておるんですが、数字を実際見てみますと、いかんせん非常に生産効率が悪い、それから購入価格が非常に安いものですから、非常に苦勞しているのが実態です。特に最近スマート農業といわれまして、AI、DXを含めました、販路開拓も含めましたものが、大きく市場変わってきているんですが、なかなかそういったものを生かせない現状がございまして、是非、食というものが岩手の第一次産業の基幹でございまして、特に幸福の基盤であると思われまして、是非この農業、林業、漁業をどう皆さんで支援していくのが非常に重要な視点かなと思っております。



中でも、先ほどからあります若者女性の部分でございまして、特に形態一企業体あたりの産出額が出ていますが、大体農業関係ですと家族経営が非常に多くて、女性の方々が朝から晩まで汗を流しているというのが現状でして、人件費もなかなか稼げないという状況です。そうした中で、是非、こちらにございまして、施策目標にございまして、「意欲と能力のある経営体を育成し、農林水産業の振興を図る」、特に「食料・木材の基幹基地をつくる」と、中でも付加価値を高め販路を広げるといふ指摘もございまして、こうしたことも含めてやはり第2期のアクションプランに関しましては、少なくとも計画増えなくとも、そんな状況を展望するようなビジョンを描いていただきたいと思います。

最近の物価高の現状からも、肥料や農薬、それから資材がむしろ高騰しておりまして、減収する現状です。ですので、いわての未来を考えた時の是非農業後継者の育成に関しまして御尽力いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

#### ○ 岩手保健医療大

岩手保健医療大学です。資料の9のところのいわて幸福関連指標の政策項目にも関連しているところなんですけれども、実は潜在看護師という問題がありまして、子育てとかライフサイクルの関係で、家庭の事情で、お仕事ができない方がいらっしゃる一方で、岩手県はずっと看護師が不足していることがございます。例えば看護系の職場、中規模病院に支援金を出していただいて、フレキシブルに働くことが可能な仕組みがサポートされれば、働く人が増え最終的に県民所得の水準にも貢献するのではないかなと思います。

本学は盛岡駅の西口徒歩5分の利便性の良いところにありますので、本学で何かできることがあれば協力したいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。以上となります。

#### ○ 岩手県商工会連合会

商工会連合会です。このアクションプランの強化する取組の例示について、僭越ながら一言要望といいますか、意見を述べさせてもらいたいと思います。県内への就職促進というところについてですが、県内企業はコロナ禍ですとか原油高や原材料の高騰の中で企業力が落ちているということもあります。その中で地域の魅力ある企業の創出、育成というのは非常に大事だと本会も考えておりまして、企業のデジタル化やDXの推進は多様な働き方、生産性の向上、また新たなビジネスの創出につながるため、強化して取り組んでおります。

そこで、この魅力ある企業の創出、雇用環境の改善、事業承継の円滑化に繋げるべく、県当局におきましても経営計画に基づく経営革新等の取組について推進、強化していただければと考えてございます。以上でございます。

#### ○ 岩手県高等学校PTA連合会

岩手県高等学校PTA連合会です。大柏と申します。いわてで働こう、岩手で働くのは誰かというところからの高校生と大学生だと思っております。今日みたいな場ではなくても、もっと高校生や大学生の意見を吸い上げていただけるような場が、この会に付してやってもらえたらすごく嬉しいなと思います。テレビの番組っぽい仕事をしているのですが、高校生とか大学生の、主に若い世代人たちに、東日本大震災の被災地でお話を聞くというのをよくやっているんですけども、なので、内陸の方の若者たちの方は逆に疎いのですが、やっぱりすごく変わってきているなというのは感じました。先ほど菊田さん（岩手県中小企業家同友会）の方からもお話がありましたけれども、やっぱり農業とか漁業とかをある程度やりながら、後は安定的な仕事も、どっちが副で、どっちが主かわからないけれどそういう生き方もしたいなっていう子が岩手だけではなく宮城にも結構いたりしたんですけども、そういう若い人たちの働き方への考え方が変わってきているという部分もすごくあると思いますので、そういったところも吸い取ってもらえるような、例えば年2回のこの場に高校生とか大学生の子が2、3人来て、いろんな事言ってくれたらすごくいいなと思ったりもしました。どうしても県内、財界の長と名がつく方がいっぱいいらっしゃったりして、働こうではなく、働いてもらおうっていうほうが多かったり、大学の先生とかが多かったりするので、働く側の思いとか意見とか取り入れてもらえたら、ありがたいなと思っております。

高校生とか大学生に付随して、女性のお話もずいぶん出ておりますけれども、違う会だったかも知れませんが、やっぱりこういう場にもっと女性の方も出ていただいて、そういうお話ができればより良い会になって、より良い県になるのかなと思ったりしました。ありがとうございました

## 【会長】

生徒、学生も立派な県民でありますし、いわて県民計画アクションプラン策定段階からみんなで作って、みんなで実行しようという趣旨でありますので、高校生、大学生がそういう意見を発表する場っていうのは色んな形で作っていきたいと思います。女性についてもその通りです。

## <総括>

### ○ 岩手労働局

厚生労働省岩手労働局の稲原でございます。本日は第1期アクションプランの最終年度に向けての取組、また、第2期という方向性につきましての議論、非常に重要かつ我々岩手労働局としましても、特に最終年度に向けてしっかりと行ってまいりたいと思っております。

その成果としましての、冒頭ございましたが、来春卒業生の求人要請のお願いを今日いらっしゃる経済団体に要請させていただきましたが、おかげをもちまして今年の6月1日現在の求人の受理数に関しましては過去2番目に高い、昨年より47%増の1,088人の求人を受理しているところでございます。毎月毎月公表させていただきますが、どんどん今受理数が多くなってございます。昨年3月卒業された、県内就職率、高卒につきましては74%と過去最高となっております。そういった意味で早期に求人を受理することが県内の就職率を高めることにも繋がると思っておりますので、今後とも引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思っております。

また、コロナ禍における、企業におきまして、大変有効だったと私ども考えてございました、雇用調整助成金の特例につきましても、先般発表させていただきました通り9月まで延長させていただいております。これの申請件数につきましても、鈍化はしてございますが日々申請を受理してございます。これにつきましても、早期に支給するということにつきましても、特化してまいりたいと思っております。

そういった中、もう一つお願ひといひますか、昨日も県の方と一緒に、労働災害が昨年今年と、コロナ禍の影響なのかどうかも含めて今精査してございますが、非常に多く、多発してございます。昨日は林業の現場にパトロールさせていただきましたが、先ほどもございましたように農林水産関係、一部若者にとって非常に有効な、やりがいのある、働きがいのある職場だということで、今、脚光を浴びつつございます。そういった現場では労災事故が発生しますと、やはり危険な現場なんだ、そういった環境なんだということにならないようにも含めまして、この夏、特に今、月間でございますので、集中して労災防止にも努めてございます。また、そういった安全対策をきちんと、安全でかつ健康な、そういった環境での職場が多いということも含めまして、そういった企業をできるだけ発信することによって若い方々にも県内への就職を高めていただくということを努めてございます。

そういった中でも、女性活躍推進に非常に特化した取組を行っているところをえるぼしだったりくるみんだったりする認定企業もしてございますが、昨年東北で初めて、プラチナえるぼしに認定を受けた企業も東北で初めて出たと、こういった企業があるということも県の中だけではなく外にも発信し、できるだけそういった魅力ある企業があるんだということも多くの機関と連携しながら発信し続けていきたいと思っておりますので、今後とも皆さんの御協力を賜りたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## ○ 東北経済産業局

東北経済産業局でございます。お世話になっております。本日は取組状況また各大学の御説明ありがとうございました。話が繰り返しのようになりますが、やはりまず県内企業を知っていただくこと、あと魅力を効果的に伝えることが重要になるんだろうなと思っております。仕事を通して地域社会にどう貢献していくのか、また仕事のやりがい、またありがたい企業の未来について、熱い思いをしっかりと発信していただいて、それを受け止めた学生さんが、是非この会社と一緒に頑張りたいという、そういった人材の採用ができれば、給与、待遇のみだけで企業を選ぶ人材よりも入った時に企業の成長にも繋がるだろうし、同時に課題となっております定着率の向上にも繋がるんだろうなと思っております。

女性活躍につきましては、大学の話でもありましたけれども、この業種、仕事は男性、女性という固定観念を持たずに活躍の場を広げていただいて、ダイバーシティということにもなりますし、先ほど知事からアスリートの事例の話もありましたけれど、若者女性シニア、様々な感性、価値観を出すことで企業の成長に繋げていただければと思っております。

経済産業省におきましてはDX、デジタル化等、目まぐるしく産業を取り巻く環境が変化している中で先日「未来人材ビジョン」を公表させていただいております。

学と連携した必要な人材の育成と企業の成長存続に大きな影響を与える人材の確保・定着について、重要な政策課題として関係機関と連携をとりながら、しっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

## ○ 岩手大学 小川学長 ※いわてで働こう推進協議会 副会長

岩手大学の小川です。本協議会の取組の中で、高等教育機関である大学として、新卒者の県内就職を促進するということが、何よりも重要な役割であるということは十分認識しておりますし、本日改めて再認識もさせていただきました。

具体的にはやはり学外からの協力を得て、大学の授業を活用したキャリア教育、例えばインターンシップガイダンスで県内企業の魅力を伝えるとか、インターンシップで経験を積んでもらうことを通じて、学生たちに自らの将来を考えてもらうきっかけとなる取組に力を入れていくということが必要だと思います。また、今日議論にありました子育て支援やワークライフバランス等、女性が働きやすく活躍できるような取組についても、本学のダイバーシティ推進室と関係機関とで協力しながら進めたいと思います。

また、学生と企業を結び付けるような取組も、県と具体的な取組の検討を進めていきたいと考えております。

令和4年度の活動計画がスタートしますと言いますか、スタートしていますので、今日協議した取組事項も含めまして、今年度の各種事業につきまして、どうか皆さん一緒に頑張っていきたいと思います。

## ○ 岩手県中小企業団体中央会 小山田会長 ※いわてで働こう推進協議会 副会長

中央会の小山田でございます。長時間にわたりまして、いろいろな情報提供、そして御発言をいただきまして誠にありがとうございます。ご苦労様でございます。県当局が中心になりまして、当協議会の取組強化が図られ、高校生や大学生等の県内就職率が上昇する等、本協議会の取組の成果が着実に上がっているものと実感しております。

産業界といたしましても今後も引き続き中小企業の働き方改革の推進に向け、AIやIoT等デジタル技術を活用しながら生産性の向上に取り組み、若者や女性が働きやすく、活躍できる環境づくりに向けてより一層努力をしてまいりたいと思います。

情報提供になりますけれども、現在、地方創生や人口減少対策として、特定地域づくり事業協同組合という制度が注目をされております。組合を通じて多様な人材を採用、育成し、地域内で人材の共有化を図る共同事業であります。人手不足対策のみならず、若者の地元定着あるいは事業承継問題等の課題解決としても大いに期待されているところであります。

中央会は中小企業支援機関として、ものづくり補助金等を活用した中小企業の設備投資やデジタル化の推進による生産性向上の支援に加え、中小企業の人材確保・育成・定着支援等にも取り組み、中小企業の魅力化支援と経営力向上に取り組んでまいりたいと思います。引き続き御支援御指導のほどよろしく願いいたします。本日はどうもご苦勞様でございました。

#### 【会長】

いわてで働こうということについては、多くの分野で進展また改善が見られていると思いますが、目標までの距離は未だ、まだかなりあるなというところもございます。一方、何をやらなければならないか、ということはだいぶ見えてきているということもあると思います。

アクションプラン4年計画の策定についてお願いさせていただいておりますが、今何をすべきかということを実際に考えると、今後4年間にやらなければならないということが見えてくるということがあると思いますし、また今後4年間というのを考えることで、ますます今やらなきゃならないことにやるぞという意欲がわいてくるというところもあると思います。

是非アクションプランの策定の方もよろしく願いしたいと思います。

## 4 閉会